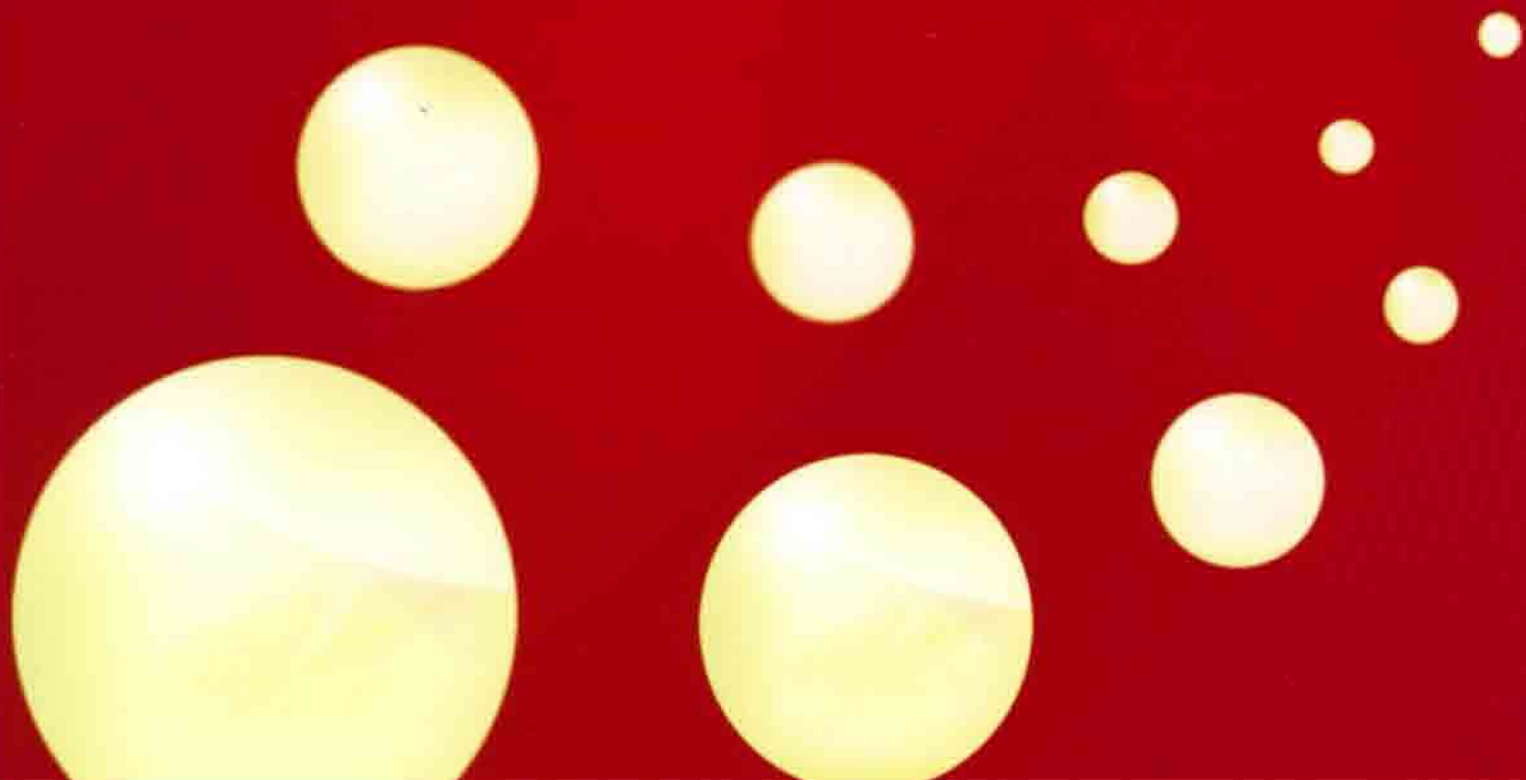


第1回
PROGRAM

第一次日中過敏反應專家交流會

日中アレルギー専門家交流会

2010年9月20日(祝) 13:00~開催



ご挨拶

日頃よりNPO法人活動へのご理解、ご高配ならびにご教導いただいていることに対して心より厚くお礼を申し上げます。

今日の地球上におけるグローバル化は経済問題にとどまらず、わたしたちの生活のあらゆる場面における諸問題にも急速かつ広範に拡大しつつあります。アレルギー問題につきましては、日本では国民の3分の1以上が何らかのアレルギー症状を訴え、子どもたちのアレルギー罹患率はここ10年で倍増しているといわれます。一方、目を見張るような経済発展を遂げつつある中国華南地域で5年ほど前まではアレルギーという言葉さえ市民生活レベルでささやかれることがほとんどない状態でした。しかし、地域医療機関からの最新情報によれば、ここ2~3年の間に明らかなアトピー性皮膚炎の症状をもつ子どもたちが上海市内小学校の各クラスに3~4名に達するようになったといわれます。また、都市部を中心とする住居の高層化や高密度に伴ってダニを主因とするアレルギー患者が急増しているともいわれます(2008年、上海交通大学の調査による)。中国においては、尘螨:“過敏原之王”(チリダニはアレルギー発生源の王様)とまで表現されるほどになりつつあるというのが現状のようであります。少子高齢化という人口問題は日本・中国ともに抱える重要課題であるうえに、「一人っ子政策」の中国における子どもの難病といわれるアトピー、小児性喘息児の急増はますます深刻な社会問題になりつつあるようであります。

NPO法人応用生物科学研究所(兵庫県)は居住環境におけるダニ類を主たる原因とするアレルギー問題を主として研究かつ応用し、認定NPO法人アレルギー支援ネットワーク(愛知県)は食物問題を主分野としたアレルギー全般にわたる広範な活動を、微力ながら、推進してまいりました。先に述べましたようにアジアを中心とする国境を越えたアレルギー問題の広がりを眼前にするときにあたって、二つのNPO法人は日中両国でアレルギー分野における諸問題についてより一層視野を拡げ、問題解決のための人的交流や情報交換の必要性の大きさに思いをいたし、ここに日中両国における本分野の代表者をお招きして「日中アレルギー専門家交流会」を共同開催する運びになりました次第であります。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

平成22年9月20日

NPO法人 応用生物科学研究所
理事長 笹川 満廣

特定非営利活動法人 応用生物科学研究所

ささかわ みつひろ
理事長 笹川 満廣

大正15年生まれ。昭和23年九州大学農学部卒業。同年財団法人淀川科学研究所入所。
昭和25年京都府立大学農学部助手、以後助教授、教授を経て、昭和63年定年退職。
その間、学生部長、農学部部長等や日本昆虫学会会長などを歴任。現在、京都府立大学名誉教授、日本昆虫学会名誉会長、ハワイ州立ビショップ博物館客員研究員等。

【主なる著書】

「京都の昆虫」京都新聞社・「現代応用昆虫学」朝倉書店・「虫の文化史」文一総合出版・「天敵大図鑑」農文協ほか。



致词

非常感谢大家,平时给予NPO法人工作的理解、关怀以及教导。

全球化不限于经济问题,在我们现实生活中任何场面,很多问题都在迅速并且广泛扩大。关于过敏症问题,据说在日本1/3以上的国民诉说患有某种过敏症状,儿童的过敏症患病率在十年之间增长一倍。另一方面,经济发展速度令人瞠目结舌的中国华南地区,5年之前在市民生活中连“过敏”这个词几乎都没有听说过。但是,据地方医疗机构的最新情报,近2~3年在上海市内小学校患有明显过敏性皮炎症状的小学生,据说每个班级都达到3~4名左右。还有,据说伴随城市为中心的住宅高层化、高密度化,导致以尘螨为主要原因的过敏性患者也在急速增长(2008年上海交通大学调查)。在中国,甚至表现为尘螨是“过敏原之王”,好像是中国的现状。少子高龄化的人口结构问题不仅是日本、中国共同面临的深刻问题,在实施《一个孩子政策》的中国,据说儿童疑难病症的过敏性皮炎、哮喘等小儿患者的急剧增加,日益成为深刻社会问题。

NPO法人应用生物研究所(兵库县),主要研究并且应用以居住环境中尘螨为主要原因的过敏反应问题。认定NPO法人过敏反应支援组织(爱知县),为推进以食物过敏为主要领域的所有过敏反应问题,虽然力量微薄,但始终都坚持了广泛的活动。

如上所述,过敏反应问题正面临以亚洲为中心超越国境扩展。双方NPO法人认为,为了解决关于日中两国过敏反应领域很多问题,有必要更加开阔视野进行人才交流、情报交换。因此,在这里邀请日中两国本领域代表者共同召开《日中过敏反应专家交流会》。

请大家多多关照。

2010年9月20日

NPO法人 应用生物科学研究所
理事长 笹川 满广

特定非营利活动法人 应用生物科学研究所
理事长 笹川 满广

出生于1926年。1948年,毕业于九州大学 农学部。同一年加入财团法人淀川科学研究所。1950年,在京都府立大学农学部当助手,经过助教授,教授,1988年退休,在那其间,担任学生部长、农学部长等和日本昆虫学会会长等。现在是,京都府立大学名誉教授,日本昆虫学名誉会长,夏威夷州立主教博物馆会友研究员等。

(主要著作)

[京都的昆虫] 京都新闻社 [现代应用昆虫学] 朝仓书店
[虫的文化史] 文一综合出版 [天敌大图鉴] 农文协



「第1回 日中アレルギー専門家交流会」プログラム

会場：WINK AICHI（愛知県名古屋市）
名古屋市中村区名駅4-4-38

受付開始：2010年9月20日（月曜日・祝） 13:00～13:30

13:35～13:45 開会挨拶

笹川 満廣 先生
（NPO法人 応用生物科学研究所 理事長、京都府立大学名誉教授）

— 記念講演 —

13:50～14:10 「発展する中国と最新アレルギー事情」

張 宏誉 先生
（中華医学会アレルギー学会 前代表 北京協和医学院 教授）

14:15～14:35 「国民病としてのアレルギー、アレルギー先進国日本の深刻な現状と課題」

須藤 千春 先生
（中部大学応用生物学部 教授）

14:40～15:00 「日本におけるアレルギー疾患の治療」

伊藤 浩明 先生
（あいち小児保健医療総合センター 内科部長）

— 休憩 —

15:10～16:00 パネルディスカッション

張 宏誉 先生（中華医学会アレルギー学会 前代表 北京協和医学院 教授）
須藤 千春 先生（中部大学応用生物学部 教授 認定NPO法人アレルギー支援ネットワーク 理事長）
伊藤 浩明 先生（あいち小児保健医療総合センター 内科部長）
水谷 章夫 先生（名古屋工業大学大学院工学研究科 教授）
渡邊 秀夫 先生（NPO法人応用生物科学研究所 副理事長）
司会：藤田 康介 先生（上海鼎瀚中医クリニック 日本部部长 医師 医学博士）

16:10～16:15 閉会挨拶

栗木 成治（認定NPO法人アレルギー支援ネットワーク 理事）

総合司会：中西 里映子
（認定NPO法人アレルギー支援ネットワーク事務局長）

講師略歴

張 宏 嘗 先生(講師・パネリスト)

1941年10月 中国 天津に生まれる。
1965年 北京医学院医療学部卒業
1965～1968年 中国医学科学院実験医学研究所病理生理専攻で院生として学ぶ。
文化大革命の間、湖北に移動し、働く。
1978年 中国医学科学院に復学し、北京協和医院の変態反応科で院生として主に研究分野で学ぶ。
1994年 免疫学博士号授位



中華医学科学院 北京協和医院アレルギー科
清華大学医学部 北京協和病院医学院 教授
中華医学会変態反応学分会主任委員 第一、第二屆主任委員
「中華臨床免疫とアレルギー」主任編集長



須藤 千 春 先生(講師・パネリスト)

中部大学応用生物学部 環境生物科学科 教授

【略歴】
名古屋大学大学院 農学研究科 卒業
医学博士 名古屋大学助教授。
専門分野 医動物学、環境動物学、医気象学。
著書「ダニと疾患のインターフェイス」他多数。

伊藤 浩 明 先生(講師・パネリスト)

あいち小児保健医療総合センター、内科部長。

【略歴】
名古屋大学医学区部卒業
名古屋大学大学院医学研究科内科系小児学専攻。
米国テキサス大学ガルベストーン校留学。
国立名古屋大病院、あいち小児保健医療総合センターアレルギー科医長。



水谷 章 夫 先生(パネリスト)

名古屋工業大学大学院工学研究科産業戦略工学専攻 コアテクノロジー分野 教授
建築構造体内の通気層による放湿効果に関する研究 (工学博士)
専門分野 環境工学

【略歴】
名古屋工業大学 助教授 教授

渡邊 秀 夫 先生(パネリスト)

NPO法人応用生物科学研究所
副理事長
日革研究所グループ代表

【略歴】
日革研究所設立
日革研究所神戸ラボラトリーを神戸先端医療センターに設立
日革商貿(上海)有限公司設立



藤田 康 介 先生(パネルディスカッション司会)

上海鼎滙中医クリニック専任医師 日本部部长

【略歴】
上海中医药大学大学院 医学博士取得(日本人としては初めて中国の中医学で医学部から博士号を取得)。
上海エクスペローラーCOO(最高執行責任者)
世界中医薬学会聯合会 腎病專業委員會 理事

『第一次 日中过敏反应专家交流会』日程安排

会场: WINK AICHI (爱知县名古屋市)
名古屋市中村区名站4-4-38

接待开始时间: 2010年9月20日(星期一-敬老节) 13:00~13:30

13:35 ~ 13:45 会议开幕词

笹川 满广 先生

(非营利组织法人 应用生物科学研究所 董事长 京都府立大学名誉教授)

— 纪念讲演 —

13:50 ~ 14:10 “发展的中国与最新过敏反应的状况”

张 宏誉 先生

(中华医学会变态反应学会 前代表 北京协和医学院 教授)

14:15 ~ 14:35 “成为国民病的过敏反应、过敏反应先进国日本的深刻现状和课题”

须藤 千春 先生

(中部大学应用生物学部 教授)

14:40 ~ 15:00 “在日本过敏疾病的治疗”

伊藤 浩明 先生

(爱知小儿保健医疗综合中心 内科部长)

— 休息 —

15:10 ~ 16:00 公开座谈讨论会

张 宏誉 先生 (中华医学会变态反应学会·前代表 北京协和医学院 教授)

须藤 千春 先生 (中部大学应用生物学部 教授 认定非营利组织法人过敏反应支援组织 理事长)

伊藤 浩明 先生 (爱知小儿保健医疗综合中心 内科部长)

水谷 章夫 先生 (名古屋工业大学大学院工学研究科 教授)

渡边 秀夫 先生 (非营利组织法人应用生物科学研究所 副理事长)

主持人: 藤田 康介 先生 (上海鼎瀚中医诊所 医师 医学博士)

16:10 ~ 16:15 闭幕致辞

栗木 成治 (认定非营利组织法人过敏反应支援组织 理事)

总会议主持人: 中西 里映子

(认定非营利组织法人过敏反应支援组织事务局长)

讲师简历

张 宏誉 先生 (发言人)

1941年10月 出生于中国 天津。
1965年 毕业于北京医学院医疗系。
1965-1968年 中国医学科学院实验医学研究所病理生理系研究生。
文革期间,下放到湖北工作。
1978年 重返中国医学科学院,在北京协和医院变态反应科做研究生
1994年 教授 博士生导师



中国医学科学院 北京协和医院变态(过敏)反应科 知名专家
清华大学医学部 北京协和医院 教授 博士生导师
中华医学会变态反应学分会第三届全国主任委员 第一、二届主任委员
《中华临床免疫和变态反应杂志》主编
《临床药物治疗》和《药物不良反应杂志》编委



须藤 千春 先生 (发言人)

(中部大学 应用生物学部 环境生物科学科 教授)

【略历】
毕业于名古屋大学大学院 农学研究科。
医学博士 名古屋大学
中部大学应用生物学部 环境生物科学科 教授
专业范围: 医动物学、环境动物学、医气象学

伊藤 浩明 先生 (发言人)

爱知小儿保健医疗综合中心 内科部长 (主任)

【略历】
毕业于名古屋大学 医学部。
名古屋大学大学院 医学研究科 内科系小児学专业
美国 得克萨斯大学 加尔维斯顿学校留学
国立名古屋大学医院 爱知小儿保健医疗综合中心过敏反应科 主任医师



水谷 章夫 先生 (发言人)

名古屋工业大学大学院 工学研究科 产业战略工学专业 核心技术领域 教授

【略历】
毕业于名古屋大学 工学部 建筑学科

渡边 秀夫 先生 (发言人)

NPO法人应用生物科学研究所 副理事长
日革研究所集团代表

【略历】
创立日革研究所
在神户最先端医疗中心创立日革研究所神户研究室
创立日革商贸(上海)有限公司



藤田 康介 先生 (主持公开座谈讨论会)

上海鼎瀚中医诊所 专职医师
日本部部长

【略历】
上海中医药大学大学院医学博士(作为日本人在中国最先取得中医学医学部的博士称号)。
上海资源管理諮COO(最高执行责任人)
世界中医药学会联合会 肾病专业委员会 理事

The background is a vibrant red color. Scattered across the upper half are several yellow circles of varying sizes, resembling bubbles or light spots. A series of thin, white, curved lines sweep across the background from the bottom left towards the top right, creating a sense of movement and depth.

JAPAN
ALLERGY
PROFESSIONALS EXCHANGE MEETING
CHINA
PROGRAM

主催：NPO 法人応用生物科学研究所
認定 NPO 法人アレルギー支援ネットワーク
後援：日革研究所グループ
会場：WINK AICHI（愛知県名古屋市中村区名駅 4-4-38）